

(様式1) 実践事例

学校名	福島市立西根中学校	校長名	佐藤 浩子		
住所	福島市飯坂町字湯野大平2番地	生徒数	113	学級数	6
TEL	(024)542-4641	ホームページアドレス	http://www.fukushima.gr.fks.ed.jp/index.php?page_id=507		

「学力向上プロジェクト」と「数学科」の実践

1 少人数指導の計画等

- (1) NRTテスト、学習アンケートやQ-Uなどで生徒の実態を把握し、学級集団と個に応じた対応策を実施し、学習意欲や学力の向上を図る。
- (2) 2学年の数学において、福島市教育委員会の「学力向上サポート事業」を活用し、授業以外、昼休みや放課後にきめ細かな補充指導を行い、基礎力や応用力を養う。

2 実践の概要

(1) 学力向上プロジェクト

- ① 第2学年の生徒の学習訓練の徹底と学習意欲を高めるため、学年と教科担任によるプロジェクトチームを結成し、連携や指導の強化を行った。
- ② Q-UやNRTテストの分析と課題の把握と課題解決についてプロジェクトチームで共通理解し、苦手教科を中心に個別指導を徹底した。
- ③ 生徒一人一人に具体的な数値目標を設定させ、学習意欲を高め、目標が達成できるように指導・支援した。



(2) 数学科の実践

- ① 学力向上サポート事業として、年間30週、毎週木曜日に学習支援員が入り、T・Tで授業を行っている。特に問題演習でつまづいている生徒への支援を中心に指導している。
- ② 基本の計算・授業の補充のため、昼休みに3名程度の生徒を対象に個別学習を実施している。
- ③ 定着確認シートの結果分析を行い、個別指導に活用している。
- ④ 数学サポーターは、生徒に対して、数学トレーニングプリントにおけるつまづきの確認や基礎学力定着のための支援をしている。また、授業進度や定期テストに合わせて、プリント学習などによる支援も行い、生徒も効果的に学習を進めている。



3 実践の成果と課題 (○:成果、△課題)

(1) 学力向上プロジェクト

- 生徒の実態や課題の把握、またその解決に向けた具体的な対応等について、共通理解を図り、チームで取組を実践した結果、生徒一人一人の学習意欲が高まった。
- 具体的な数値目標をもたせ、昼休みや放課後など個別指導を徹底したことにより、一人一人の基礎学力が向上した。
- プロジェクトチームでの話し合いにより教師同士も情報交換ができ、学習課題の提示・設定の工夫など授業の質的改善が見られた。

(2) 数学科の実践

- 問題解決能力に優れている上位の生徒にも違った視点からアプローチさせるなど、指導を工夫した結果、意欲の向上が見られた。
- 生徒はT・Tの授業やプリント学習の実践により、自分のわからないことが明らかになり、積極的に質問するようになった。
- △ 学習支援員や数学サポーターとの連携を深め、さらに効果のある支援ができるよう打合せの時間の確保や指導内容の吟味が必要である。より連携した支援ができるよう、打合せの時間を確保したい。